

#### 4 - 7 三宅島近海及び新島・神津島近海の地震活動と日本列島周辺の大地震・群発地震との地震数の比較

**Comparison of numbers of earthquakes (M 4) associated with the seismic activity around Miyakejima, Nijima and Kozushima in 2000, and large earthquakes and swarms in and around Japan in the past.**

気象庁地震予知情報課

Earthquake Prediction Information Division, Japan Meteorological Agency

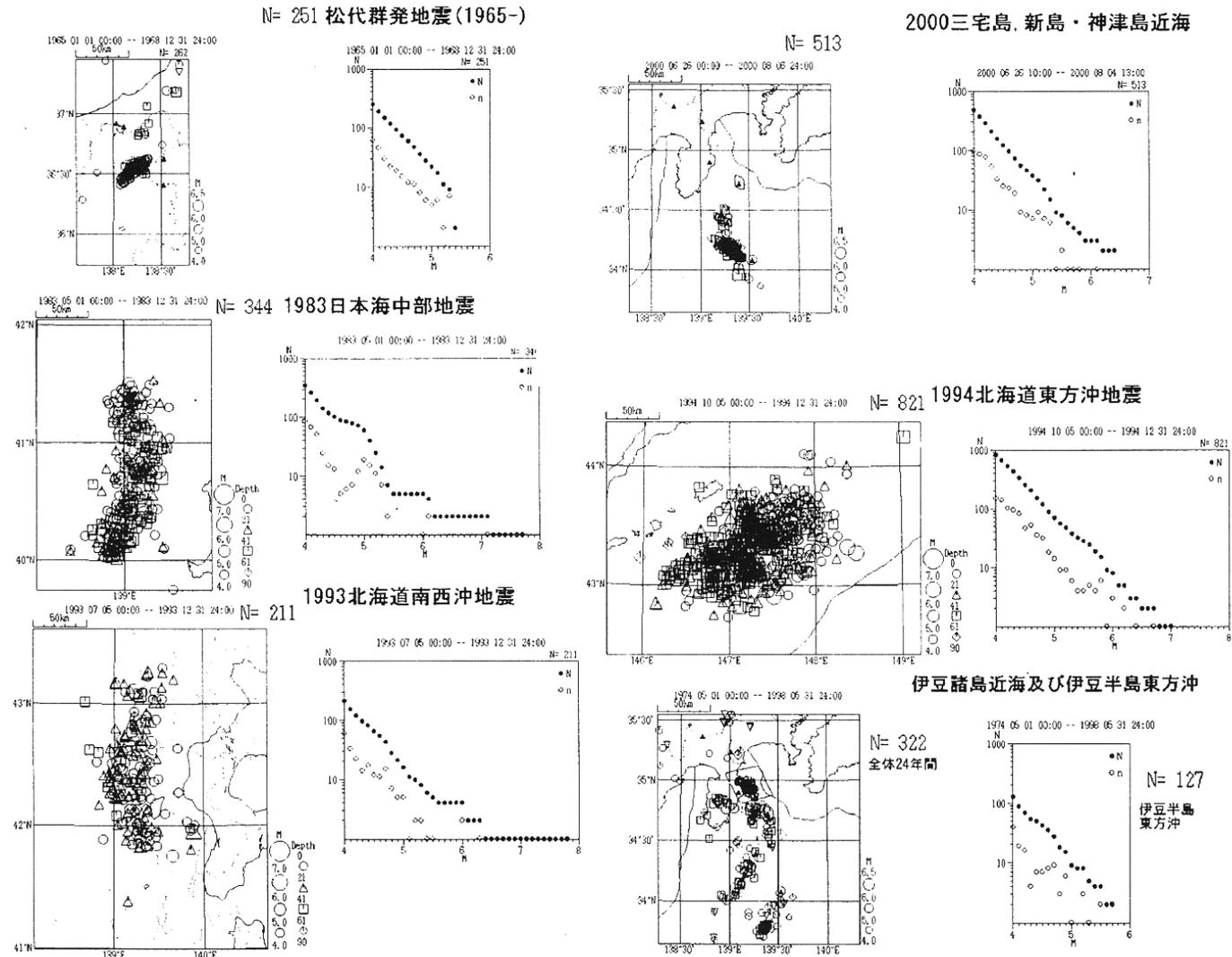
2000年6月26日から始まった三宅島，新島・神津島近海の群発地震活動では，M4以上の地震の発生数が際立って多く，群発地震としての規模が大きいことが特徴である。M4以上の地震数は2ヶ月あまりで，600回近くに達した。

これは2年近く活動した松代群発地震の場合の約250個を上回るのは勿論，日本海側で発生するM7クラスの大地震，日本海中部地震や北海道南西沖地震の余震数をも上回っている。

太平洋岸で起きる典型的な巨大プレート間地震である北海道東方沖地震で余震の数は1000個近くになる。1923年関東地震，1944年南海地震などの余震活動も同程度と考えられ，余震数で今回の活動を超えるのは，これらの巨大地震の場合だけである。

なお，活発な地震活動を繰り返している伊豆半島東方沖の群発地震活動でも，10年あまりの期間の地震数の合計でM4以上の地震数は100個のオーダーであり，今回の活動との規模の違いがわかる。

# 日本列島周辺の大地震、群発地震活動における M4 以上の地震数



第1図 日本周辺で発生した群発地震と大地震のM4以上の地震の震央分布と規模別頻度分布。

Fig.1 Epicentral distributions and magnitude-frequency diagrams of earthquake swarms and large earthquakes in and around Japan.